



平成最後の八期通信になりました。実はただ今の時は令和元年5月4日 am11:15 です。以下の文は平成31年4月10日から令和元年5月3日までのものです。

○八期ライングループには全国のスマホ写真自慢の仲間から桜の写真が沢山送られてきています。大石独断と偏見で審査した作品を1枚にまとめてお届けします。この他にも皇居「千鳥ヶ淵の桜」定番の「吉野公園の桜」「甲突川河畔」など沢山ありました。構図としては森永・森両君の作品が秀でていました。最後になって永野敦士くんから送られてきた『玉龍八期の桜一新入生（後輩たちよ）』には審査員特別賞を上げます。



○相変わりませずの「いつもありがとうございます。」桜の下で花見を楽しまれた方もおいでのようで世はまさに花盛りようです。

大石さん、引き続きご苦勞をおかけしますが人をもって代えがたきあなたのこと長生きをしながら、奮励努力のほどお願いします。

新紙幣、西郷さんがだめなら、大久保さんでも東郷さんでも、よいのではないのでしょうかお二方とも、立派なお髭を蓄えています。

お札の裏には、桜島や高千穂の峰という素晴らしい図柄を描けます。

薩摩から西郷さんを差し置いてというわけにはいかないのでしょうか？

総理が長州の今は、無理？

○ 大石くん

八期歴史愛好家の皆様 今年の鹿児島島の桜は長持ちしてお利口さんでした。

3月26日、私たちが週2回グラウンドゴルフをする武岡ニュータウン公園の桜が5輪咲いて、私の開花宣言でした。その公園でどんぐりの会(町内の老人会)の花見を開いたのが3月31日の日曜日でした。まだ3分咲きくらいでした。

今朝、散歩がてら行ってみると満開で少し散り始めていました。

明日の朝は強い雨の予報が出ていますので、今年の桜の見納めだったかもしれません。

4月8日の日曜日、娘夫婦に誘われてほぼ満開の「薩摩街道・出水筋」の桜を見に行きました。鹿児島市の水上坂を通り、犬迫を通って伊集院に抜ける道です。秋に開催される島津義弘が「島津の退き口」を経て鹿児島に帰還した歴史に因む「妙円寺詣り」の道筋です。私も数回、妙円寺詣りには参加しましたが、今回の花見は車で走り抜けました。

下の写真はその出水筋の写真です。
食事をした伊集院に近い「茶らら」(さらら)の入口では桜とツツジのコラボでいい風景でした。



クマモト タツオ



○クマタツさん

「島津の退き口」、島津は西軍の文字を見るたびに気になることは、島津は本当に西軍であったのかということです。少なくとも積極的な西軍参陣ではなかったと思っています。
妙円寺、玉龍時代、学校から汽車賃を貰って平日の昼日中、授業を受けることなく剣道の試合に行きました。帰りは、伊集院饅頭が楽しみでした。

○大石様 隈元様 西山様

いつも配信感謝です。
荒れ模様の4月 昨夜来の雨・風で こちらの桜 すっかり散ってしまいました。
今年の八期四国旅 準備順調の様子 楽しい旅 祈っています。
長崎 諫早 森永

○西山さん

私も義弘軍が西軍に積極的に参加したとは思っていません。それには、① 家康に依頼された伏見城の留守番役を、家康の部下により拒絶されて行きどころがなくなったこと。②大阪城にいわゆる人質になっていた義久の娘・亀寿(義弘の次男・忠恒・後の家久の妻)が大阪城にいたため、その身を無事に鹿児島に連れ帰るには西軍につかざるを得なかったという二つの大きな要因があったのではと思っています。

この問題は複雑で一言では言い表せません。
いずれ一つの文にまとめたいと思っています。

クマモト タツオ

○メールありがとうございます。

まったく同じ意見です。
朝鮮から撤退のときの働きを賞して家康は、秀吉には禁じられていた薩摩に対して、加増で恩を売りました。
また、気も遣っていました。
一橋家などとの縁組など、むしろ島津は徳川家とは近しい関係にありました。

福島正則や加藤清正は豊臣恩顧の大名ですが津は秀吉には恨みこそあれ恩義はありません。

何が何でも西軍に参陣しなければならない理由もなし。

毛利とは、まったく事情が異なります。

=====西山 和宏

[Ohttps://youtu.be/5Uwv2FCtU5I](https://youtu.be/5Uwv2FCtU5I)

歌之介は圓歌になって、一段と知名度があがるでしょう。

三遊亭とは、飲む、打つ、買うのこと。

政府は観光立国と言っていますが光に欠かせないのは、この三遊。

「翔ぶが如く」は字幕が必要なほどセリフが分からず不評で視聴率は鹿児島以外では20%でも鹿児島では80%と好調両方を足すと100%と

の後には綾小路きみまろがありやはり 笑いました。

歌之介は語りました。

○西山さんのメールを見てから、改めて歌之介のかごつま弁の落語を何本もユーチューブで見ることでした。かごつま弁の面白さの再発見ができたり、忘れていたかごつま弁が出てきたりして一人で笑ってしまいます。 クマモト

○2019年4月16日(火) 8:26 <mamei2suwamori991@yahoo.co.jp>:

隈元さん 西山さん

配信ありがとうございます。

圓歌さん この名前 まだ馴染まないですがよ^^

歌之介さんの時代 こちらで落語会があり聞きに行きました。

久しぶりに鹿児島を堪能しました^^

武蔵丸 そう言えば西郷さあですね。

長崎 諫早 森永

○そうでしょう そうでしょう

坂本竜馬は、先日、NHKで放映がありました。


再放送であったかもしれません。

ついでに、ユーチューブで「きみまろ」も観たことと思います。

薩摩隼人は、冗談が好きだと海音寺潮五郎が書いていました。

薩摩の冗談にはトゲもあれば愛嬌もある。

西郷さんも、結構、そのような人であったと思います。

○今夕土曜日 6時 NHK テレビ 雲霧仁左衛門 に 鶴田さんが出ます♪ 実は 13日予告まで見ていた主人が 鶴田さんに似た人が出る というので まさかメールも来ないのに と次の 20日の土曜日見ていたら 本当に彼が出たので ビックリ!! チャンスがあり だぼ様に 書いて見ましたら 自分も知らなかった♪再放映だとの事です まだ何週か 続くそうですなかなか良い味の 大金持ちの旦那を演じてます 良かった♪ら見てください MH 追伸 隈元さんに 慌て 鶴田さんのこの話し 書いて (火)に葉書出しましたが 昨日届いたはずですが いまだにメールも来ないのよいつもは に メール来て パソコンなのに 良く見てるなーと 思うくらい だのにね あの人 具合悪いのじゃあないでしょう郵便局の配達が遅いのか? でも letter パックは 1日で 届いたわよ ビックリ 十日も連休で 世の中どうか ならないかと 配達も 明日と 5月2日 朝のうちに 税金やら納めに 郵便局に行って やっとほっとしています♪ お互いに気をつけて過ごしましょう マーコより

○マーコさんに悪いことをしました。

実は昨日、愛すべきハガキが届いたのですが、浜崎会長の依頼で、玉龍同窓会の学年幹事にパレスイン鹿児島に出かけたり森くん、尾堂さんと3人で出かけていました。

すぐメールすれば良かったのですが、今日はすっかり失念してまだメールしていませんでした。

これからすぐメールしておきます。ありがとう。 クマモト

4月26日

○大石さん、隈元さん

こんにちは。ごぶさたしています。明日から十連休入りで、陽気も初夏モードですね。

「乱世に生まれ候」関連です。

薩摩隼人の精神的バックボーンとなっていたと言われる「いろは歌」は日新公作とは知っていたけど、内容はすっかり忘れていたので読み返してみました。

日新公（島津忠良）は伊作島津家の出で、後に島津本家に入る貴久の父であり、また出色の島津四兄弟（義久、義弘、歳久、家久）の祖父に当たります。日新公が「島津中興の祖」と敬われる所以ですね。さて、この日新公の「いろは歌」は先刻ご承知のことと存じますが、「い」から末尾の「す」まで47

首の和歌にまとめられています。ただ、内容的には戦国武士の精神面の涵養に資すべく、500年近く前の1545年に作成されたものです。それゆえ現在の感覚からはやや馴染みにくい気もします。

ただ、冒頭「い」の “いにしへの道を聞ても唱へても わが行ひにせすは甲斐なし” の文言は普遍性があり、いつの世でも通用する忘れてならない大切なことではないでしょうか。要すれば、個人的にはこの一首だけを覚えておけばいいのかなあという気もしています。

隈元さん 帰鹿しましたら豊久氏の眠る天昌寺にご一緒できることを楽しみにしています。

佐倉市 古市

○隈元くんが届いてますか？

最近すっかり南日本新聞に島津の殿様ニュースが載りません。新元号まであと4日ですね。

八期仲間のほとんどが令和元年が八十歳ですね。 オオイシ

○ 大石くんの言うように、最近、島津の記事のみならず、歴史の記事が少なく寂しい思いをしています。明治維新150年の昨年の反動でしょうか。

3年くらい前に鹿児島で全国の藩主サミットがあり、徳川家始め、全国の有力大名の子孫が集合しました。

そのとき、私たちも呼ばれて七高寮歌など鹿児島の歌を披露しましたが、同時に南さつま市の子供たちが「薩摩いろは歌」を披露し、大変な喝采を浴びました。

昨年の鹿児島作曲協会募集の子どもたちの優秀曲の発表の際にも、また違う形で、いろは歌の演奏がありました。このときも会場には賞賛の音が広がり、私たちも感激したものです。

このように、鹿児島では現在も日新公の精神は受け継がれています。

私もブログ（2012年2月23日、2013年3月18日など）で日新公を祀る竹田神社やいろは歌のことを書きました。

竹田神社にも維新ふるさと館のある甲突川の緑地帯にも、いろは歌の立派な歌碑が林立しています。

帰ってみえたら、案内しますので一緒に行きましょう。天昌寺ももちろんです。そのときは、吹上永吉の本田さんにガイドをお願いしようと思っています。物凄く情熱を持った方です。

クマモト タツオ

○メールありがとうございます。

日新公いろは歌、私は小学校5～6年は鴨池小学校でした。

6年の時担任の今和泉一郎先生が毎朝いろは歌を一つずつ朗読させてくれました。

後々まで記憶に残ったのは「古の道を聞いて唱えても……」ですが、「我が行いにせざば甲斐なし」にはその後の人生に少なからず影響を与えました。

「議をゆな」

論語の「学びて思わざれば即ちくらし、思いて学ばざれば即ちあやうし」に通ずるものだと思います。

「七十にして矩（のり）をこえず」という言葉に相応しくなりえたか、迷うことはあるものです。

大竜小学校には1年の途中から2年の途中までそして3年～4年はフルに在学。

長田中学校は1～3年在学でした。

鴨池小学校で、今和泉先生の音頭取りで、校庭の端にお茶の木を植え私は鶴嘴を振るいました。

お茶の木が大きくなったら葉を売って修学旅行へ行く余裕がない子の費用に充てるためでした。

森村誠一の「人間の証明」ではないが、あのお茶の木は、どうなっているのでしょうか？

鴨池小学校のそばには震災孤児を預かる「仁風寮」があり、幼い弟や妹を背負って登校する子もいました。その子が泣くと教室の外にでました。

ぼんたん飴のセイカ食品の工場も近くにあり、風向きで甘い香りが教室に漂ってきたものです。

西山 和宏

○パソコン現状報告

パソコンが遅くなり買い替えを覚悟していましたがメモリーを4GB増設で、計6GB若返り快適になりました。随分昔、パソコンを買ったらまずメモリー増設でしたが、購入当初調子がよかったせいか、忘れていました、買い替えを覚悟したためまずバックアップということで外付けHDDを2TBから4TBに買い換えました。外付けHDDの中身のバックアップを目下検討中です。

○2019年4月29日(月) 13:28 古市 庄八郎 <j39zone@catv296.ne.jp>:

大石さん、隈元さん、西山さん

メールありがとうございました。

藩主サミットのこと、佐倉藩主であった堀田家の現当主として参加したと、当人（謡仲間）から聞いていました。

堀田家は佐倉市内では名門校の佐倉高校（藩校が前身）に関わっており、その関係で藩校サミットに出席したようです。

サミットでの催し物は聞きませんでした。が、「いろは歌」も披露されたのですね。今に至るも脈々と受け継がれているとはすばらしいと感じ入りました。かつての郷中教育の名残的なものなのでしょうか。どんな音律で歌われているのか聴いてみたい気がします。

竹田神社は懐かしい思い出の場所です。小学6年の春まで疎開先の川辺町にいたので、竹田神社のお祭りは年に一度の大きな楽しみでした。当時はバスの便も少なく、また小遣い銭も乏しかったので、神社の出店で使うため、部落の仲間が集まり集団で遠路を往復徒歩でした。川辺小学校へ片道1時間かけて歩き鍛えられていたせいか、辛いと思ったことはなかったですよ。

もとより「いろは歌」のことなど知る由もなく、西山さんの学校の様子とは雲泥の差でした。

帰鹿の折は天昌寺のほか竹田神社もご案内いただけるとのこと、嬉しい限りです。また本田さんにも、是非お会いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

佐倉市 古市

・・・・平成さようなら！！ まもなく令和がおはよう！と言っています。・・

令和の幕開けメールは隈元くんからやってきました。

○平成から令和への移り変わりをテレビ中継で見えていました。

新しい令和の年まで生きることができたことに感謝です。願わくばいい時代になれば、とその一点だけです。

さて、先日の「藩校サミット」について当時の資料を調べてみました。

事実誤認がありましたので、お詫びと訂正をします。

先ず、開催されたのを3, 4年前と書きましたが、実際は2013年3月9日(土)でした。今から6年も前のことです。

大会名も藩主サミットと書きましたが、本当は「第11回全国藩校サミット」でした。

全国の藩校を持っていた藩主の子孫が集まった会議であり、今回は島津重豪(しげひで)が鹿児島に藩校「造士館」を

設立し、後にこれが旧制七高造士館となり、戦後これが鹿児島大学となったことから、第11回は鹿児島大学の主催となったものです

。

佐倉藩は成徳書院という藩校を古市さんの知り合いでもある堀田家が持っていたのですね。

当日の資料には31の藩主の子孫の参加者の中に、堀田家もあります。

もう一つの驚きは古市さんが疎開当時、川辺におられて、そこから加世田の竹田神社まで歩いて行っていたということです。

私も現役時代は県下中車で走り回っていたことや、川辺の野崎には親戚もいて、冠婚葬祭ごとで行くこともあり、地理的な感覚はいくらかあるつもりですが、川辺と加世田は車ではそこそこですが、子供の足では大変だったでしょう。

もっとも、私も現在は薩摩川内市に合併された東郷町に疎開していて、そこから川内市まで歩いて遠足に行っていましたから、同じようなことだったのかもしれないね。私も古市さんのメールでいろいろ思い出すことでした。

クマモト タツオ

○みなさん その昔 幼少の折にはよく歩いたようですね！

私は、小学校1年のとき食料を求めて種子島に疎開しました。2年から大竜。

片道1時間かかり梅雨時の大雨のとき川が溢れて橋も危ないので休むなどで26日も欠席しました。

学校が遠いので、国上小学校で食べる分と帰る途中で食べる分の弁当を2つサツマイモなどを持って通いました。

当節、安納芋などと有名ですが胸やけするほど食べました。

島津重豪なかりせば、薩摩が明治維新であれほど活躍できることはなかったでしょう。 西山

平成から令和へ年号の考察・・・

○今日は令和元年5月1日です

。昨日は平成31年4月30日でした。西暦だと2019年の同じ月日。

よく分かりますが、これが幕末の頃の元号と西暦を見るとこんがらがって来ます。

文久3年（1863）薩英戦争はいいのですが翌年の文久4年（1864）が2月20日に改元して元治元年になります。西郷が沖永良部から戻り（2月28日）京に上るのは3月4日そして禁門の変（7月）も元治元年ですが翌年（1865）元治2年4月7日に改元があって慶応元年ですね。薩摩藩英国留学生派遣の齡です。慶応は4年まで続いて1868年、この年は1月に鳥羽伏見の戦いがあったてやがて4月の江戸城無血開城の年です。

10月23日に慶応から明治に代わります。その日は慶応4年9月8日だそうです。このことがよくわかりにくいのです。

年譜を見ていると複雑です。慶応から明治へその前の文久～元治～慶応へと年号の代わる日にちが不規則なのに比べると今回の平成4月30日の翌日5月1日が令和元年というのはよく分かります。

ただ100年後の人が令和元年は何月からだった？と5月とはっきり分かればいいけどと思ったりします。

○